

ぎんれい句会

平成二十九年十二月

見上げては雑木紅葉の中を行く

主宰 細野恵久 福祉三期

水涸れて木道由来薄れ文

増田和子 食文一期

暦繰り九十路へ繫げむ日記買ふ

改正節夫 国際三期

銀杏を蹴り合ひ競ふ下校の子

藤井秀重 生環四期

洗米の水透く朝冬の鴈

三枝邦光 美工五期

哀史ある島の石塔石路の花

國永靖子 音文六期

田ステ女柏原の人冬に入る

猿橋二三雄 福祉八期

文字大き歎異抄読む夜長かな

太田 實 国際十期

児たちは落葉の丘をすべり台

大下絹子 国際十五期

ほうれん草血脈切りとる間引きかな

中村建生 国際十五期

秋霖や忘れて来たる傘袋

藤本武子 国際十五期

球を打つ谷の向こうの錦秋へ

山下 進 国際十五期

寒昂地の温もりを奪いけり

許斐國照 食文十五期

立ち話冬日隠れてしまひけり

小淵政子 健福十六期

俯瞰する芦ノ湖の秋へ降りてみる

兼清久子 健福十七期

国庫入り預金に未練帰り花

宮本公子 健福十七期

折鶴は三角、四角、日向ぼこ

沖本无辺子 国際十七期

稽古終へトアの外なる師走かな

香春早苗 国際十七期

世事多難独り突けるおでん鍋

仲田慎輔 国際十七期

嗚呼人生杖の行列枯れ葉道

中村富美子 国際十七期

熔岩の黒き台地や冬の虹

宮本眞貴子 国際十七期

大鍋の豚汁匂ふ紅葉坂

江間れい子 園芸十七期

山茶花の白い花びら母白寿

小栗恭子 健福十八期

ハイウエー雑木紅葉の山続く

潮江敏弘 健福十八期

神在月稲佐の浜の孤の道

野見山剛 健福十八期

オーシャンビュー小春に浮ぶクルーザー

大山吉春 国際十八期

ハイヒール回転ドアの外は冬

今井義和 美工二十期

静ひの妻は無口に大根剥く

尾崎育久 美工二十一期

黄落や足を止めたる能面展

黒木早苗 食文二十一期

終い湯の柚子と戯れ刻忘る

宮脇暁美 食文二十一期

第二百四十四回ぎんれい句会（十二月八日開催）より